

第16回サントリー音楽賞 声楽家の豊田喜代美さんに

— 4月11日に贈賞式 —

第16回（昭和59年度）のサントリー音楽賞が、声楽家の豊田喜代美さんに贈られることが2月27日、東京・赤坂のサントリービルで行なわれた最終選考会で決定しました。同賞は、前年度においてわが国の洋楽の発展向上に最も寄与した日本人を顕彰するもので、受賞者には賞金300万円が贈呈されます。贈賞式は4月11日、午後1時から東京・丸ノ内の東京会館で行なわれます。

豊田さんの受賞は、オペラ、オラトリオ、コンサートなどにおいて今日の声楽家としての新鮮な感覚をもった存在を示した、その目覚ましい活躍によるものです。特に贈賞理由としては、①昨年9月1、2日の日生劇場におけるオペラ〈コシ・ファン・トゥッテ〉（モーツァルト）でのデスピーナ役、②同9月25日に上演されたオペラ〈ホフマン物語〉（オッフェンバック）で、日本人としてはじめてオリンピア、アントニア、ジュリエッタとステルラの4役を受け持ち見事に演じ分けたこと、③第114回「毎日ゾリステン」（同11月28日）として行たった初のリサイタル、同11月9日の「プロムジカ合唱団」定期の小泉和裕指揮による〈天地創造〉（ハイドン）などでの知的で端正な歌唱表現があげられています。

豊田さんは昭和26年東京生まれ。昭和49年桐明学園大学卒業後、萩谷納、柴田陸、柴田喜代子、中山悌一の各氏に師事。昭和53年西独ケルン国立音楽大学に留学し、E・ボゼニウス、N・スターノ両氏に師事し54年帰国。渡独前からオペラ歌手としてその新鮮な舞台は好評を得ており、高い評価を受けていました。コンサートの分野でもオーケストラ作品、オラトリオ、ミサ曲のソリストとして活躍しています。昭和58年度のジローオペラ賞を受賞。現在、二期会の会員です。

当日の記者会見で豊田さんは、「サントリー音楽賞をいただいて、うれしくて胸が一杯です。これを機会に、さらにひとつひとつ、しっかりやって行きたいと思います。どうもありがとうございました」と言葉少なに喜びを語っていました。

* * *

2月27日午前10時から行なわれた最終選考会には、芥川也寸志、宮沢縦一、門馬直美の各氏ら11人の選考委員が全員出席（但し吉田雅夫委員は書面参加）。1月15日に候補者としてノミネートされた尾高忠明、角倉一郎、東京混声合唱団、豊田喜代美、藤原歌劇団の3氏2団体を対象に選考を開始しました。1次選考で角倉、豊田両氏と東京混声合唱団に絞られ、このあと更に慎重な討議を重ねた結果、豊田さんに賞を贈ることで全員が一致し、引き続き開かれた理事会で正式に承認されたものです。

以 上